

学校法人稲置学園「平成30年度事業計画書」

昨年新たに策定した「2017年度中期計画」の各事業の進捗状況、新たな課題等の整理及び対応策の検討を踏まえ「2018年度中期計画」を策定した。「2018年度中期計画」における重点事業である、教育の充実、教育基盤の拡充及び経営基盤の主たる事業計画について以下のとおり掲げる。

I 教育の充実

[大 学]

・グローバル人材の育成

グローバル化する社会の動きに対応するため、星稜100年ビジョンで示された「グローバルに活躍できる人材の育成」並びに2014年度の中期計画において策定した大学のグローバル化計画、及び『金沢星稜大学の国際化ビジョン』に基づき、以下の取り組みを実施していく。

(1) 学内のグローバル環境の整備

- ① 国際交流センター海外交流プログラムの充実 ② 全学部生に対する英語運用能力の強化・支援
- ③ 英語による授業科目の増加 ④ 非英語圏に留学する学生向け現地語速習講座開設（継続）

(2) 外国人留学生に対する学内環境整備

- ① 交換留学生向け履修プログラムの整備 ② 留学生用宿舎の整備・検討
- ③ 留学生の生活・就職支援

(3) 交流協定校との関係強化

- ① 交流協定校からの本学への留学促進 ② 交流協定校の拡大 ③ 学術交流の促進

(4) 地域のグローバル化への貢献

- ① 本学のグローバル人材育成の広報活動強化 ② 英語教育力のある教員の育成

・学士課程の質保証

大学全体として、学生にとって教育課程の体系が容易に理解できる仕組みづくりを推進するとともに、必修化されている「卒業研究」が実質運用される2019年度に向けてルーブリック（「卒業研究」ルーブリックサンプル）を作成し、その汎用性を高めながらルーブリック評価システムを構築など、学修達成度の質的評価を全学的に行っていくことを目指す。

なお、各学部において以下の取り組みを実施していく。

経済学部

- ①カリキュラムの内容、方法、評価の検討と順次実施

②卒業研究における仕組みの整備と運用（整備後順次運用）

③基礎ゼミナールにおける「星稜モデル」の検討と作成（含他大学視察）

人間科学部

①就職につなげるための教育プログラムの作成 ②教育実践支援センター（仮称）の検討

人文学部

①完成年度に向けた入学定員の確保(4期生入学者75人の確保)

②就職に向けた支援活動プログラムの作成と実施

③留学に向けた事前・事後の学修計画の再構築と実施

[中学・高等学校]

・中高一貫校としての教育の充実

今年度、タブレットを新入生より導入して、総合的な学習の時間を使って理科の基礎実験を行うサイエンスプログラム、イングリッシュキャンプやNHKラジオ基礎英語を通して、英語に対する興味や関心を高めるためのグローバルプログラムを始めた。2018年度においては、歴史研究や地理研究を通して、人の生き方や世界の国々について学び、自分の将来の生き方を考えるキャリアプログラム及び英語コミュニケーション研修を実施する。

①タブレットの導入（中学1年生、全員）

②サイエンスプログラムの実施（中学1年生、全員）

③イングリッシュキャンプの実施（中学1年生、全員）

④キャリアプログラムの実施（中学2年生、全員）

⑤英語コミュニケーション研修（中学2年生、希望者）

⑥タブレット導入又は中高一貫教育実績校等への視察研修

[星稜幼稚園・星稜泉野幼稚園]

・認定こども園による教育・保育の充実

星稜幼稚園では、2017年度に幼稚園から「幼保連携型認定こども園」に移行し、幼稚園の機能に加えて、保育園の機能を併せもつ教育施設となった。幼稚園にはなかった保育機能が新たに加わり、運営体制が大きく変化しているため、2018年度は、教育・保育の運営を軌道にのせ、精選された質の高い教育・保育の実現を目指す。

なお、具体的には下の取り組みを実施していく。

①質の高い一貫した就学前教育の実施

- ②石川県唯一の大学附属の幼保連携型認定こども園として、金沢星稜大学との連携による独自の・創造的な教育・保育の実施
- ③調理室を活用した食育教育（自園完全給食）
- ④子育て支援事業、就労支援
- ⑤特色ある活動の実施（金沢の伝統文化、伝統工芸の体験）
- ⑥星稜でしかできない課外活動（大学と高校と連携した活動）

星稜泉野幼稚園は、2017年度に幼稚園から「幼稚園型認定こども園」に移行し、幼稚園の機能に加えて、保育園の機能を併せもつ教育施設となり、2歳から6歳までの一貫した幼児教育がスタートした。認定こども園として、認定こども園として2歳から6歳までの一貫した幼児教育の運営体制を確立することを目指す。

なお、具体的な事業は以下の取り組みを実施していく。

- ①2歳～6歳までの一貫した幼児教育の実施 ②食育の充実
- ③室内での活動と園庭及び園庭遊具を活用した活動 ④金沢星稜大学との連携
- ⑤子育て支援事業の実施
- ⑥特色ある活動（和太鼓、文化や伝統工芸の体験、サッカー教室等）の実施
- ⑦地域との交流・祖父母との交流

II 教育基盤の拡充

[中学・高等学校]

・ICT教育の充実

従来のように教師が生徒に一方的に教えるのではなく、生徒同士のグループディスカッションや発表などを通じて、生徒がより主体的・協働的に学習するよう促すという新たな学習形態すなわち「アクティブ・ラーニング」をICT活用で実践し、教育の本質そのものを変えていく。

2018年度は教員のICT活用能力の向上と効率的な授業運営及び生徒の学力向上を目指すため、以下の事業に取り組む。

- ①ICT教育研修会の実施 ②ペーパーレス会議用のタブレット端末の設置
- ③全教室に遮光カーテンまたは遮光・遮熱窓フィルムの設置・整備、テレビまたはプロジェクタの設置

[法人、中学・高等学校]

・総合寮の検討及び整備

現在の寮は食事や健康管理の点から考えると、まだまだ不十分である。また、Pコースの競技実績を上げる要素に、県外からの優秀な人材確保が挙げられる。県外から生徒を募集するためには、寮監による安全・安心な寮生活の確保と、食育からみた成長期に必要なバランスの良い食事を提供できる環境が必要であり、充実した施設環境を整えた寮を建設する必要がある。

また、中高一貫校となり中学への入学を希望する学力優秀な生徒や運動能力の高い生徒が県外からも入学できるように、中学校からの寮への入寮も視野に入れる必要がある。

以上の中学高等学校の現状を踏まえて、総合寮の建設を検討及び整備に着手する。

Ⅲ 経営基盤の改善

[法 人]

・稲置記念館講堂天井改修工事

文部科学省が進める学校施設の天井等非構造部材の耐震対策に伴い、1989年に建設された稲置記念館講堂の天井の耐震点検を行った結果、耐震工事が必要と診断された。よって、2018年4月中旬から10月末の予定で改修工事を実施する。

[大学・短大]

・大学情報システム更改事業

金沢星稜大学並びに金沢星稜大学女子短期大学の基幹情報ネットワークシステムを最新技術に対応した機器に更改し、学習環境の充実と安定性・安全性の向上を実現する。対象は導入から5年以上経過した以下のシステムとする。

- ①情報インフラのネットワーク機器
- ②情報演習用PCの更改
- ③無線LANネットワークの拡充、統合認証システムの導入
- ④電子マネーシステムの更改
- ⑤セキュリティ危機管理システムの導入